

聞く・話す・書く

英語の語順 トレーニング

Level 2

解答・解説書

監修 飯野厚（法政大学教授）

目次

		学習した日
Lesson 1	Three new students joined our club. 4 ▶ 主語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 2	I'll wear my favorite blue jacket 6 ▶ 目的語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 3	They are famous young musicians 8 ▶ 補語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Mix Training 1	Lesson 1 ~ 3 10 ▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 4	I have some friends studying Chinese 12 ▶ 現在分詞を使って目的語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 5	That cat sleeping on the sofa is cute. 14 ▶ 現在分詞を使って主語・補語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 6	We bought some cookies made by children 16 ▶ 過去分詞を使って目的語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 7	The things sold at that store are cool. 18 ▶ 過去分詞を使って主語・補語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Mix Training 2	Lesson 4 ~ 7 20 ▶ 上記各レッスンで学んだ事柄をミックスして学習	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 8	We often enjoy singing karaoke 22 ▶ 動名詞(-ing)を使って目的語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 9	Talking with that boy was fun. 24 ▶ 動名詞を使って主語・補語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 10	We hope to see him in Nagoya 26 ▶ 不定詞(to do)を使って目的語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
Lesson 11	My best friend's wish is to study abroad 28 ▶ 不定詞を使って補語のかたまりを作る	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日

Lesson

1

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 1 では主語のかたまりについて学びました。

① **Takashi** came to the party. タカシがパーティーに来た。

S

② **Many young Japanese students** came to the party.

S

多くの若い日本人の学生がパーティーに来た。

③ **People from Japan** came to the party. 日本からの人々がパーティーに来た。

S

●上の3つの文は、主語(S)の部分が違うだけです。

●②の文では形容詞の Many、young、Japanese が名詞の students を前から修飾して、かたまりを作っています。このかたまり全体が名詞の働きをして、文の主語になっています。

Many young Japanese students 多くの若い日本人の学生

↑

●③の文では<前置詞+名詞>の from Japan が名詞の People をうしろから修飾しています。このかたまり全体が名詞の働きをして、文の主語になっています。

People from Japan 日本からの人々 (from は前置詞)

↑

Step 3 解答

No. 1 (Three) (new) (students) joined our club.

No. 2 Is (that) (man) (by) (the) (door) your English teacher?

No. 3 (The) (things) (in) (this) (box) aren't mine.

解説

S: 主語 V: 動詞

No. 1 **Three new students** **joined** our club.

S V

3人の新しい生徒が私たちのクラブに入った。

●形容詞の Three と new が students を修飾して、主語のかたまりを作っています。

No. 2 **Is that man by the door** your English teacher?

V S

ドアのそばのあの男性は、あなたの英語の先生ですか。

●<前置詞 (by) + 名詞>の by the door「ドアのそばの」が、うしろから that man を修飾して、主語のかたまりを作っています。

No. 3 The things in this box aren't mine.
S V

この箱の中の物は私のではない。

- <前置詞 (in) + 名詞>の in this box「この箱の中の」が、うしろから The things を修飾して、主語のかたまりを作っています。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: いい知らせです。3人の新しい生徒が私たちのクラブに入りました。

B: それはすごいですね！

No. 2 A: ドアのそばのあの男性は、あなたの英語の先生ですか。

B: はい。彼はアンダーソン先生です。

No. 3 A: この箱を捨ててもいいですか。

B: わかりません。この箱の中の物は私のではないから。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞

Is that man (_____) your English teacher?
V S

①ヒント by the window / in the room

Lesson 2

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 2 では目的語のかたまりについて学びました。

① I took photos. 私は写真を撮った。
S V O

② I took several beautiful photos. 私は数枚の美しい写真を撮った。
S V O

③ I took photos of my friends. 私は自分の友人たちの写真を撮った。
S V O

●上の3つの文は<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>の 패턴の文で、目的語の部分が変わりだけです。

●②の文では形容詞の several と beautiful が名詞の photos を前から修飾して、かたまりを作っています。このかたまり全体が名詞の働きをして、文の目的語になっています。

several beautiful photos 数枚の美しい写真
↑

●③の文では<前置詞+名詞>の of my friends が名詞の photos をうしろから修飾しています。このかたまり全体が名詞の働きをして、文の目的語になっています。

photos of my friends 私の友人たちの写真 (of は前置詞)
↑

Step 3 解答

No. 1 I'll wear (my) (favorite) (blue) (jacket).

No. 2 Did you eat (the) (sandwich) (on) (the) (table) ?

No. 3 I don't know (the) (address) (of) (the) (store).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 I'll wear my favorite blue jacket.
S V O

私はお気に入りの青いジャケットを着よう。

- my (代名詞) と、形容詞の favorite と blue が jacket を修飾して、動詞 will wear の目的語となるかたまりを作っています。

No. 2 Did you eat the sandwich on the table ?
S V O

あなたはテーブルの上のサンドイッチを食べましたか。

- <主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>の 패턴の疑問文です。<前置詞(on) + 名詞>の on the table「テーブルの上の」が、うしろから the sandwich を修飾して、動詞 eat の目的語となるかたまりを作っています。

Lesson 3

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 3 では補語のかたまりについて学びました。

① They are students . 彼らは学生だ。
S V C

② They are new overseas students . 彼らは新しい海外からの学生だ。
S V C

③ They are students from Spain . 彼らはスペイン出身の学生だ。
S V C

●上の3つの文は<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの文で、補語の部分が違うだけです。それぞれ<S = C>の関係が成り立つことを確認してください。

●②の文では形容詞の new と overseas が名詞の students を前から修飾して、かたまりを作っています。このかたまり全体が名詞の働きをして、文の補語になっています。

new overseas students 新しい海外からの学生
↑

●③の文では<前置詞 + 名詞>の from Spain が名詞の students をうしろから修飾しています。このかたまり全体が名詞の働きをして、文の補語になっています。

students from Spain スペイン出身の学生 (from は前置詞)
↑

Step 3 解答

No. 1 They are (famous) (young) (musicians) .

No. 2 Is this (a) (present) (for) (me) ?

No. 3 She didn't become (a) (member) (of) (the) (team) .

解説

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

No. 1 They are famous young musicians .
S V C

彼らは有名な若いミュージシャンだ。

●<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの文です。<主語 = 補語>の関係になることに注目しましょう。形容詞の famous と young が musicians を修飾して、補語のかたまりを作っています。

No. 2 Is this a present for me ?
V S C

これは私へのプレゼントですか。

●<主語(S) + be 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの疑問文です。<前置詞(for) + 代名詞>の for me「私への」が、うしろから a present を修飾して、補語のかたまりを作っています。

No. 3 She didn't become a member of the team .

S V C

彼女はチームのメンバーにならなかった。

- <主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>の 패턴の否定文です。<前置詞(of) + 名詞>の of the team「チームの」が、うしろから a member を修飾して、補語のかたまりを作っています。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: 何を聞いているんですか。

B: ザ・タイラー・シスターズの新曲です。彼女たちは有名な若いミュージシャンです。

No. 2 A: これは私へのプレゼント？

B: ええ！ お誕生日おめでとう！

No. 3 A: 彼女はチームのメンバーになりませんでした。

B: それは残念ですね。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

Is this a present (_____)?

V S C

①ヒント for your boyfriend / from your sister

- L1～L3はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L1: No. 2)なら Lesson 1のNo. 2を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- (応用)と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

1. I'll wear (**my favorite blue jacket**). (L2: No. 1)

2. Is this (**a present for me**)? (L3: No. 2)

3. I read (**a[the] letter from my grandmother**). (応用)

* a[the] letter を<前置詞+名詞>の from my grandmother でうしろから修飾して、かたまりを作ります。このかたまりは名詞の働きをして、動詞 read の目的語になります。

4. (**Three new students**) joined our club. (L1: No. 1)

Mix 2

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

1. I don't know **the address of the store**. (L2: No. 3)

S V O

私はその店の住所を知らない。

2. **She didn't become a member of the team**. (L3: No. 3)

S V C

彼女はチームのメンバーにならなかった。

3. **My uncle is that man by the door**. (応用)

S V C

私のおじはドアのそばのあの男性です。

* <主語(My uncle) = 補語(that man by the door)>の関係が成り立ちます。

4. I bought **a book about Africa**. (応用)

S V O

私はアフリカについての本を買った。

* a book about Africa というかたまりが動詞 bought の目的語になり、「アフリカについての本を買った」という意味を表しています。

Mix 3

1. ① 2. ② 3. ② 4. ①

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

1. The things in this box aren't mine. (L1: No. 3)

この箱の中の物は私のではない。

* in this box がうしろから The things を修飾して、文の主語となるかたまりを作っています。

2. They entered this school in April. (応用)

彼らは4月にこの学校に入学した。

* in April 「4月に」は副詞の働きをして、動詞 entered に「いつ入学したのか」という情報を加えています。

3. We sang songs on the stage. (応用)

私たちはステージの上で歌を歌った。

* on the stage 「ステージの上で」は副詞の働きをして、動詞 sang に「どこで歌ったのか」という情報を加えています。

4. Did you eat the sandwich on the table? (L2: No. 2)

あなたはテーブルの上のサンドイッチを食べましたか。

* on the table がうしろから the sandwich を修飾して、文の目的語となるかたまりを作っています。もし on the table が副詞の働きをしていると考え、「あなたはテーブルの上でサンドイッチを食べましたか」という、変な意味になってしまいます。

Lesson 4

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 4 では動詞の -ing 形の現在分詞が名詞を修飾して作る、目的語のかたまりについて学びました。

- ① Clouds covered the sun . 雲が太陽を覆った。
S V O
- ② Clouds covered the shining sun . 雲が、輝いている太陽を覆った。
S V O
- ③ Clouds covered the sun shining in the sky . 雲が、空で輝いている太陽を覆った。
S V O

- 上の3つの文は<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>のパターンの文で、目的語の部分が違うだけです。
- ②の文では現在分詞の shining「輝いている」が名詞 sun を修飾しています。このように分詞 1 語で名詞を修飾する場合は、名詞の前に置くのがふつうです。
- ③の文では shining in the sky「空で輝いている」が、うしろから the sun を修飾しています。このように 2 語以上で修飾する場合は、名詞のうしろに置くのがふつうです。Lesson 4 ではこの修飾方法を学びました。
- ing の現在分詞は名詞を修飾するときに「～している、～する」といった能動の意味を表します。

Step 3 解答

- No. 1 I have (some) (friends) (studying) (Chinese).
- No. 2 Can you see (that) (girl) (running) (over) (there)?
- No. 3 I don't know (that) (boy) (smiling) (at) (us).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

- No. 1 I have some friends studying Chinese .
S V O

私には中国語を勉強している友人が何人かいる。

- studying Chinese「中国語を勉強している」がうしろから some friends を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは動詞 have の目的語になっています。
- 目的語のかたまりの中では、Some friends are studying Chinese. という状況が成り立ちます。

- No. 2 Can you see that girl running over there ?
S V O

あそこで走っているあの女の子が見えますか。

- running over there「あそこで走っている」がうしろから that girl を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは動詞 see の目的語になっています。

Lesson 5

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 5 では -ing 形の現在分詞が名詞を修飾して作るかたまりが、文の主語と補語になることを学びました。

- ① **That boy** is Mike. あの男の子はマイクだ。
S V C
- ② **That boy playing the guitar** is Mike. ギターを弾いているあの男の子はマイクだ。
S V C
- ③ **Mike is** that boy playing the guitar. マイクは、ギターを弾いているあの男の子だ。
S V C

- 上の3つの文は、どれも<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの文です。それぞれの文で<S = C>の関係が成り立つことを確認してください。
- ②の文では That boy playing the guitar というかたまりが名詞の働きをして、文の主語になっています。
- ③の文では that boy playing the guitar というかたまりが名詞の働きをして、文の補語になっています。
- ②と③のかたまりの中では、現在分詞を使った playing the guitar「ギターを弾いている」が、うしろから That[that] boy を修飾していることを確認してください。

Step 3 解答

- No. 1 (That) (cat) (sleeping) (on) (the) (sofa) is cute.
- No. 2 Are (those) (boys) (playing) (soccer) your classmates?
- No. 3 She isn't (the) (person) (working) (with) (me).

解説

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

- No. 1 **That cat** sleeping on the sofa is cute.
S V C

ソファの上で眠っているあのネコはかわいい。

- sleeping on the sofa「ソファの上で眠っている」がうしろから That cat を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは文の主語になっています。
- かたまりの中では、That cat is sleeping on the sofa. という状況が成り立ちます。

- No. 2 **Are** those boys playing soccer your classmates?
V S C

サッカーをしているあの男の子たちはあなたの同級生ですか。

- playing soccer「サッカーをしている」がうしろから those boys を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは文の主語になっています。

Lesson

6

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 6 では過去分詞が名詞を修飾して作る、目的語のかたまりについて学びました。

- ① We found the bicycle . 私たちはその自転車を見つけた。
S V O
- ② We found the stolen bicycle . 私たちは盗まれた自転車を見つけた。
S V O
- ③ We found the bicycle stolen in the park . 私たちは公園で盗まれた自転車を見つけた。
S V O

- 上の3つの文は<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>のパターンの文で、目的語の部分が違うだけです。
- ②の文では過去分詞の stolen「盗まれた」が名詞 bicycle を修飾しています。このように分詞 1 語で名詞を修飾する場合は、名詞の前に置くのがふつうです。
- ③の文では stolen in the park「公園で盗まれた」が、うしろから the bicycle を修飾しています。このように 2 語以上で修飾する場合は、名詞のうしろに置くのがふつうです。Lesson 6 ではこの修飾方法を学びました。
- 過去分詞は名詞を修飾するときに「～された、～される」といった受動の意味を表します。

Step 3 解答

- No. 1 We bought (**some**) (**cookies**) (**made**) (**by**) (**children**).
- No. 2 Did you see (**the**) (**photos**) (**taken**) (**in**) (**London**) ?
- No. 3 I didn't attend (**the**) (**party**) (**held**) (**last**) (**week**).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

- No. 1 We bought some cookies made by children .
S V O

私たちは子どもたちによって作られたクッキーを買った。

- made by children「子どもたちによって作られた」がうしろから some cookies を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは動詞 bought の目的語になっています。
- 目的語のかたまりの中では、Some cookies were made by children. という状況が成り立ちます。

- No. 2 Did you see the photos taken in London ?
S V O

あなたはロンドンで撮影された写真を見ましたか。

- taken in London「ロンドンで撮影された」がうしろから the photos を修飾して、名詞の働

きをするかたまりを作っています。このかたまりは動詞 see の目的語になっています。

- 目的語のかたまりの中では、The photos were taken in London. という状況が成り立ちます。

No. 3 I didn't attend the party held last week.

S V O

私は先週開かれたパーティーに出席しなかった。

- held last week「先週開かれた」がうしろから the party を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは動詞 didn't attend の目的語になっています。
- 目的語のかたまりの中では、The party was held last week. という状況が成り立ちます。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: 地元のお祭りに行きましたか。

B: ええ。私たちは子どもたちによって作られたクッキーを買いました。

No. 2 A: ロンドンで撮影された写真を見ましたか。

B: いいえ。見てもいいですか。

No. 3 A: 先週開かれたパーティーに出席しなかったんです。あなたは行きましたか？

B: ええ。楽しかったですよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Did you see the photos (_____)?
S V O

①ヒント taken in New York / taken by Akira

Lesson 7

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 7 では過去分詞が名詞を修飾して作るかたまりが、文の主語と補語になることを学びました。

① The song was Imagine. その歌は「イマジン」だった。
S V C

② The song sung by the students was Imagine.
S V C

生徒たちによって歌われた歌は「イマジン」だった。

③ Imagine was the song sung by the students.
S V C

「イマジン」が生徒たちによって歌われた歌だった。

- 上の3つの文は、どれも<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの文です。それぞれの文で<S = C>の関係が成り立つことを確認してください。
- ②の文では The song sung by the students というかたまりが名詞の働きをして、文の主語になっています。
- ③の文では the song sung by the students というかたまりが名詞の働きをして、文の補語になっています。
- ②と③のかたまりの中では、過去分詞を使った sung by the students「生徒たちによって歌われた」が、うしろから The[the] song を修飾していることを確認してください。

Step 3 解答

No. 1 (The) (things) (sold) (at) (that) (store) are cool.

No. 2 Are (the) (books) (written) (by) (this) (writer) difficult?

No. 3 They are (the) (guests) (invited) (to) (the) (dinner).

解説

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

No. 1 The things sold at that store are cool.
S V C

あの店で売られている物はかっこいい。

- sold at that store「あの店で売られている」がうしろから The things を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは文の主語になっています。
- かたまりの中では、The things are sold at that store. という状況が成り立ちます。

No. 2 Are the books written by this writer difficult?

この作家によって書かれた本は難しいですか。

- written by this writer「この作家によって書かれた」がうしろから the books を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは文の主語になっています。
- かたまりの中では、The books were written by this writer. という状況が成り立ちます。

No. 3 They are the guests invited to the dinner.

彼らはディナーに招待されたお客さんたちだ。

- invited to the dinner「ディナーに招待された」がうしろから the guests を修飾して、名詞の働きをするかたまりを作っています。このかたまりは文の補語になっています。
- かたまりの中では、The guests were invited to the dinner. という状況が成り立ちます。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: あの店で売られている物はかっこいいね。

B: うん、でも少し高いね。

No. 2 A: この作家によって書かれた本は難しいですか。

B: はい。私は彼の小説のひとつを読み通すことすらできませんでした。

No. 3 A: あそこに立っているあの人たちはだれですか。

B: 彼らはディナーに招待されたお客さんたちですよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

The things (_____) are cool.

①ヒント sold in Harajuku / made by that fashion company

- L4～L7はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L4: No. 2)なら Lesson 4のNo. 2を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- (応用)と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

1. They are (**the guests invited to the dinner**). (L7: No. 3)
2. I have (**some[several] friends studying Chinese**). (L4: No. 1)
3. (**That cat sleeping on the sofa**) is cute. (L5: No. 1)
4. I didn't attend (**the party held last week**). (L6: No. 3)
5. Can you see (**that girl running with a dog[dogs]**)? (応用)

*「走っている」なので、能動的な意味を表す現在分詞のrunningを使います。running with a dog[dogs]でthat girlをうしろから修飾して、かたまりを作ります。

Mix 2

Q1

*英文はすべて Lesson 4のキーセンテンス No. 3をもとにしたものです。

Step 1 かたまり： **that boy smiling at us**

Step 2 S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

1. **That boy smiling at us** is Mike.
S V C
2. Mike is **that boy smiling at us**.
S V C
3. I don't[do not] know **that boy smiling at us**.
S V O

Q2

*英文はすべて Lesson 6のキーセンテンス No. 2をもとにしたものです。

Step 1 かたまり： **the photos taken in London**

Step 2 S: 主語 V: 動詞 O: 目的語 C: 補語

1. **The photos taken in London** were beautiful.
S V C
2. These are **the photos taken in London**.
S V C
3. Did you see **the photos taken in London**?
S V O

Lesson

8

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 8 では動名詞が作るかたまりが目的語になることを学びました。

① I practice English every day. 私は毎日、英語を練習する。
S V O

② I practice speaking English every day. 私は毎日、英語を話すことを練習する。
S V O

●①と②はどちらも<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>のパターンの文です。

●②の文では動詞の-ing形である動名詞 speaking を使った、speaking English というかたまりが目的語になっています。

●動名詞は「～すること」といった意味で、名詞の働きをします。そのため、動名詞や、動名詞が作るかたまりは目的語になることができます。

●動名詞や、動名詞が作るかたまりは、たとえば enjoy「～を楽しむ」、practice「～を練習する」、stop「～をやめる」、finish「～を終える」、avoid「～を避ける」、suggest「～を提案する」といった動詞の目的語になります。

Step 3 解答

No. 1 We often (enjoy) (singing) (karaoke).

No. 2 Have you (finished) (writing) (the) (report)?

No. 3 He (shouldn't) (stop) (working) (with) (us).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 We often enjoy singing karaoke.
S V O

私たちはしばしば、カラオケを歌うことを楽しむ。

- singing karaoke「カラオケを歌うこと」というかたまりが、動詞 enjoy の目的語になっています。

No. 2 Have you finished writing the report?
S V O

あなたはレポートを書き終えましたか。

- 現在完了形の疑問文です。< Have + 主語 + 動詞の過去分詞形(finished)...? >の語順になっています。
- writing the report「レポートを書くこと」というかたまりが、動詞 finished の目的語になっています。

No. 3 He shouldn't stop **working with us**.

S V O
彼は、私たちと働くのをやめるべきではない。

- working with us「私たちと働くこと」というかたまりが、動詞 shouldn't stop の目的語になっています。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: あなたは週末は、たいてい友だちと何をしますか。

B: 私たちはしばしば、カラオケを歌って楽しめます。

No. 2 A: あなたはレポートを書き終えましたか。

B: いいえ、まだです。今夜書きます。

No. 3 A: マイクはこのプロジェクトを気に入っていませんよ。

B: でも私たちには彼が必要です。彼は、私たちと働くのをやめるべきではありません。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

We often enjoy (_____).
S V O

📌**ヒント** making cookies / reading comic books

動名詞が作るかたまりを前置詞に続ける

名詞はたとえば以下の例のように、前置詞のうしろに置くことができます。

I'm interested in **art**. (in は前置詞)

私は芸術に興味がある。

動名詞や、動名詞が作るかたまりも名詞の働きをするので、前置詞のうしろに置くことができます。

I'm interested in **painting pictures**.

私は絵を描くことに興味がある。

He's good at **dancing hip hop**. (at は前置詞)

彼はヒップホップを踊ることがうまい。

Lesson

9

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 9 では動名詞が作るかたまりが主語と補語になることを学びました。

① His job is important. 彼の仕事は重要だ。
S V C

② Protecting this jungle is important. このジャングルを保護することは重要だ。
S V C

③ His job is protecting this jungle. 彼の仕事はこのジャングルを保護することだ。
S V C

- 上の3つの文は、どれも<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンです。それぞれの文で、<S = C>の関係が成り立つことを確認してください。
- 動名詞の protecting が作るかたまりが、②の文では主語に、③の文では補語になっています。かたまりが名詞の働きをして「~すること」という意味を表していることを確認しましょう。

Step 3 解答

No. 1 (Talking) (with) (that) (boy) was fun.

No. 2 Is (using) (this) (machine) difficult?

No. 3 My hobby is (collecting) (anime) (goods).

解説

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

No. 1 Talking with that boy was fun.
S V C

あの少年と話すことは楽しかった。

- Talking with that boy「あの少年と話すこと」というかたまりが、文の主語になっています。
- ちなみに、この文の補語の fun は「楽しみ」という意味の名詞です。数えられない名詞なので、× a fun とはしません。

No. 2 Is using this machine difficult?
V S C

この機械を使うことは難しいですか。

- using this machine「この機械を使うこと」というかたまりが、文の主語になっています。

No. 3 My hobby is collecting anime goods.
S V C

私の趣味はアニメグッズを集めることだ。

- collecting anime goods「アニメグッズを集めること」というかたまりが、文の補語になっています。

Lesson 10

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 10 では不定詞 (to do) が作るかたまりが目的語になることを学びました。

- ① We are planning a party . 私たちはパーティーを計画している。
S V O
- ② We are planning to have a party . 私たちはパーティーをすることを計画している。
S V O
- ①と②はどちらも<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>のパターンの文です。
 - ②の文では不定詞の to have を使った、to have a party というかたまりが目的語になっています。このかたまりは「～すること」といった意味で、名詞の働きをしています。
 - 名詞の働きをする不定詞や、不定詞が作るかたまりは、たとえば want「～を望む」、hope「～を望む」、expect「～を予期する」、plan「～を計画する」、decide「～を決める」、promise「～を約束する」、agree「～に同意する」、refuse「～を拒む」といった動詞の目的語になります。

Step 3 解答

No. 1 We (hope) (to) (see) (him) (in) (Nagoya).

No. 2 Did she (decide) (to) (join) (the) (club)?

No. 3 He (didn't) (promise) (to) (do) (this) (work).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 We hope to see him in Nagoya .
S V O

私たちは名古屋で彼と会うことを望んでいる。

- to see him in Nagoya「名古屋で彼と会うこと」というかたまりが、動詞 hope の目的語になっています。

No. 2 Did she decide to join the club ?
S V O

彼女はクラブに入ることを決めましたか。

- to join the club「クラブに入ること」というかたまりが、動詞 decide の目的語になっています。

No. 3 He didn't promise to do this work .
S V O

彼はこの仕事をするとは約束しなかった。

- to do this work「この仕事をする」というかたまりが、動詞 didn't promise の目的語になっています。

Step 4 日本語訳

- No. 1 A: 山本さんと会議をされるのですか。
B: はい。私たちは名古屋で彼とお会いすることを望んでいます。
- No. 2 A: 彼女はクラブに入ることを決めましたか。
B: よくわかりません。彼女に聞きますね。
- No. 3 A: マットが私たちを手伝ってくれないから、私は怒っているんです。
B: でも、彼はこの仕事をするには約束しませんでしたよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

Did she decide (_____)?
S V O

①ヒント to come here / to marry him

不定詞を使う？ 動名詞を使う？

不定詞は「これから先のこと」を表す傾向があります。そのため、以下のような動詞の目的語になります。

hope「～を望む」、plan「～を計画する」、decide「～を決める」、promise「～を約束する」

一方、Lesson 8と9で学んだ動名詞には、「通常していること、現在していること」を表す傾向があります。そのため、以下のような動詞の目的語になります。

enjoy「～を楽しむ」、practice「～を練習する」、finish「(現在していること)を終える」

以下のふたつの文を比較して、そのニュアンスの違いを確認しましょう。

I hope to watch that movie. →これから映画を見ることを表している。

私はその映画を見たいと思う。

I enjoy watching movies. →いつも映画を見て楽しんでいることを表している。

私は映画を見て楽しむ。

Lesson 11

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 11 では不定詞が作るかたまりが、名詞の働きをして補語になることを学びました。

① Their goal is world peace . 彼らの目標は世界平和だ。
S V C

② Their goal is to make a peaceful world . 彼らの目標は平和な世界を作ることだ。
S V C

●①と②はどちらも<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの文です。それぞれ<S = C>の関係が成り立つことを確認してください。

●②の文では不定詞 to make が作るかたまりが名詞の働きをして、補語になっています。かたまりが「～すること」という意味を表していることを確認しましょう。

Step 3 解答

No. 1 My best friend's wish is (to) (study) (abroad) .

No. 2 The city's plan is (to) (build) (a) (new) (park) .

No. 3 His aim in life was (to) (become) (an) (actor) .

解説

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

No. 1 My best friend's wish is to study abroad .
S V C

私の親友の望みは留学することだ。

- to study abroad「留学すること」というかたまりが文の補語です。<S = C>の関係を確認しましょう。

No. 2 The city's plan is to build a new park .
S V C

市の計画は新しい公園を作ることだ。

- to build a new park「新しい公園を作ること」というかたまりが文の補語です。<S = C>の関係を確認しましょう。

No. 3 His aim in life was to become an actor .
S V C

彼の人生の目標は俳優になることだった。

- to become an actor「俳優になること」というかたまりが文の補語です。<S = C>の関係を確認しましょう。
- 主語(S)のかたまり内では、His aim を、<前置詞+名詞>の in life がうしろから修飾しています。このようなかたまりは Lesson 1 で学びましたね。

Step 4 日本語訳

- No. 1 A: 私の親友の望みは留学することです。
B: すばらしいですね。私はいつかヨーロッパで勉強したいです。
- No. 2 A: 市の計画は新しい公園を作ることです。
B: 私はその計画を支持します。
- No. 3 A: 私たちの新しい英語の先生はとってもおもしろいなあ。
B: うん！ 彼の人生の目標は俳優になることだったんだよ。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 C: 補語

My best friend's wish is (_____).
S V C


①ヒント to pass the exam / to become rich and famous

Lesson 12

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 12 では不定詞を使ったかたまりが主語になることを学びました。

- ① **Healthy food is important.** 健康によい食べ物**は**重要だ。
S V C
- ② **To eat healthy food is important** . 健康によい食べ物を**食べる**ことは重要だ。
S V C

- ③ **It is important to eat healthy food.**
仮S V C 本S

*仮S：仮の主語 本S：本来の主語

- 上の3つは<主語(S) + 動詞(V) + 補語(C)>のパターンの文です。
 - ②の文の主語は不定詞 **to eat** が作るかたまりですが、英語では頭でっちな文は避けるので、文末にこのかたまりを移動します。
 - そうすると、③の文になります。主語のかたまりを文末に移動したら、文の頭が空いてしまいますから、そこに仮の主語として **It** を置きます。その際、<It = to eat healthy food >の関係になることに注意してください。不定詞が作るかたまりが主語になる場合、通常はこの形にします。
- *ちなみに、この **It** には「それ」という意味はありません。意味はなく、単にそこに本来の主語があったことを示しているだけです。

Step 3 解答

- No. 1 It was a mistake (to) (eat) (so) (much).
- No. 2 It isn't easy (to) (answer) (this) (question).
- No. 3 Is it necessary (to) (attend) (the) (ceremony)?

解説

仮S：仮の主語 本S：本来の主語 V：動詞 C：補語

- No. 1 **It was a mistake to eat so much.**
仮S V C 本S

食べ過ぎたのは間違いだった。

- A was a mistake. 「A は間違いだった」という文がもとになっています。
- 本来の主語である to eat so much「食べすぎる」とが、文末に置かれています。<仮の主語 It = to eat so much >の関係が成り立ちます。

- No. 2 **It isn't easy to answer this question.**
仮S V C 本S

この質問に答えるのは簡単ではない。

- A isn't easy. 「A は簡単ではない」という文がもとになっています。

- 本来の主語である to answer this question「この質問に答えること」が、文末に置かれています。<仮の主語 It = to answer this question >の関係が成り立ちます。

No. 3 Is it necessary to attend the ceremony?

V 仮S C 本S

式典に出席することは必要ですか。

- Is A necessary? 「A は必要ですか」という文がもとになっています。
- 本来の主語である to attend the ceremony「式典に出席すること」が、文末に置かれています。<仮の主語 it = to attend the ceremony >の関係が成り立ちます。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: お腹が痛い。食べ過ぎたのが間違いだった。

B: もっと気をつけたほうがいいよ。

No. 2 A: 困ったな。この質問に答えるのは簡単ではないよ。

B: 私に見せてごらん。手伝えるかもしれない。

No. 3 A: 式典に出席することは必要ですか。

B: はい。私たち全員がそれに出席しないといけません。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

仮S: 仮の主語 本S: 本来の主語 V: 動詞 C: 補語

It isn't easy (_____).

仮S V C 本S

①ヒント to wake up early / to write English letters

Lesson 13

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 13 では不定詞のかたまりの主語に当たるものを示す方法を学びました。

- ① It is important to eat healthy food. 健康によい食べ物を食べることは重要だ。
- ② It is important for him to eat healthy food. 彼が健康によい食べ物を食べることは重要だ。
- ①は Lesson 12 で学んだパターンの文です。この文は、「一般的に言って、健康によい食べ物を食べることは重要だ」ということを述べていると受け取れます。
 - ②の文では、不定詞のかたまりの to eat healthy food の直前に <for + 人> の for him があります。この文は、「彼が健康によい食べ物を食べることは重要だ」と述べています。普段健康的な食生活をしていない「彼」に向けたことばだと考えられます。
 - このように <for + 人> で不定詞の主語に当たるものを示すことができます。ここでは He eats healthy food. という関係が成り立ちます。
 - for him のように、<人>の部分に代名詞を使う場合は目的格にします。× for he などとはしません。また、<人>のところには人名などの名詞をそのまま入れることもできます。

Step 3 解答

- No. 1 It is a good idea (for) (him) (to) (live) (alone).
- No. 2 It wasn't hard (for) (her) (to) (make) (new) (friends).
- No. 3 Is it possible (for) (them) (to) (come) (here) (by) (five)?

解説

- No. 1 It is a good idea for him to live alone.

だれが

彼がひとりで暮らすのはいい考えた。

- for him が to live alone「ひとりで暮らすこと」の主語に当たり、He lives alone. の関係になります。
- 単に It is a good idea to live alone. とすると、「だれにとってもひとりで暮らすことはよい」ということを述べていると受け取れます。

- No. 2 It wasn't hard for her to make new friends.

だれが

彼女が新しい友人を作るのは難しくはなかった。

- for her が to make new friends「新しい友人を作ること」の主語に当たり、She makes new friends. の関係になります。
- 単に It wasn't hard to make new friends. とすると、この文を述べている人自身がそうであっ

たことを表します。

No. 3 Is it possible for them to come here by five?

だれが

彼らがここに5時までに来るのは可能ですか。

- for them が to come here by five「ここに5時までに来ること」の主語に当たり、They come here by five. の関係になります。
- 単にIs it possible to come here by five? とすると、だれが5時までに来るのが可能なのかはつきりわかりません。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: ジェイクはアパートを見つけましたか。

B: ええ。彼がひとりで暮らすのはいい考えです。

No. 2 A: アシュレーは新しい学校を気に入っていますか。

B: とっても。彼女が新しい友人を作るのは難しくありませんでした。

No. 3 A: 彼らがここに5時までに来るのは可能ですか。

B: そう思います。

Extra 文を作ってみよう!

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

It wasn't hard (1 _____) (2 _____).

だれが

不定詞のかたまり

①ヒント 1: for him、2: to make cookies / 1: for Mari、2: to swim 1,000 meters

* to join the club は「～するために」という意味で「目的」を表しています。このかたまりは副詞の働きをして情報を加えています。そのため We came here. だけでも文として成立します。

3. He left his town to live alone. (応用)

S V O 副詞の働き

彼はひとりで暮らすために町を出た。

* to live alone は「～するために」という意味で「目的」を表しています。このかたまりは副詞の働きをして情報を加えています。そのため He left his town. だけでも文として成立します。

4. He didn't promise to do this work. (L10: No. 3)

S V O

彼はこの仕事をする事は約束しなかった。

仮S：仮の主語 本S：本来の主語

5. Is it possible for them to come here by five? (L13: No. 3)

V 仮S C だれが 本S

彼らがここに5時までに来ることは可能ですか。

Lesson 14

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 14 では < that + 主語 + 動詞 ... > のかたまりが目的語になることを学びました。

① I know Mike. 私は マイク を知っている。
S V O

② I know that Mike loves Emily. 私は、マイクがエミリーを愛していること を知っている。
S V O

- 上の①と②は、どちらも < 主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O) > のパターンの文です。
- ②の文の目的語は、以下のように that のあとに主語 (Mike) と動詞 (loves) があります。

that Mike loves Emily マイクがエミリーを愛していること
S V

that のあとが Mike loves Emily. のように文として成り立つことに注目しましょう。

- この < that + 主語 + 動詞 ... > は名詞の働きをして、「～ということ」といった意味を表します。なお、このかたまりを目的語にする動詞には、know「～を知っている」、think「～と思う」、believe「～と思う」、say「～と言う」、hope「～を望む」などがあります。

Step 3 解答

No. 1 I know (that) (she) (has) (a) (boyfriend).

No. 2 Do you think (that) (he) (is) (free) (today)?

No. 3 I don't think (that) (the) (math) (course) (is) (easy).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 I know that she has a boyfriend.
S V O

私は、彼女にボーイフレンドがいることを知っている。

- < that + 主語 (she) + 動詞 (has) ... > のかたまりが動詞 know の目的語になっています。かたまりの中では、that のあとが She has a boyfriend. のように文として成り立っていることを確認しましょう。

No. 2 Do you think that he is free today?
S V O

あなたは、彼が今日は暇だと思いますか。

- < that + 主語 (he) + 動詞 (is) ... > のかたまりが動詞 think の目的語になっています。かたまりの中では、that のあとが He is free today. のように文として成り立っていることを確認しましょう。

Lesson 15

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 15 では Lesson 14 に引き続いて、< that + 主語 + 動詞 ... > のかたまりが目的語になることを学びました。

① Sarah told me the news . サラは私にその知らせを教えてくれた。
S V O O

② Sarah told me that she can speak French . サラは私に、自分はフランス語を話せると言った。
S V O O

●上の①と②は、どちらも< 主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O) + 目的語 (O) > のパターンの文です。最初の目的語は「～に」を、2 番目の目的語は「～を」を表します。

●②の文の 2 番目の目的語は、**名詞の働きをする < that + 主語 + 動詞 ... > のかたまり**です。このかたまりは、文の主語の Sarah が私に言った内容を述べています。

かたまりの中では、以下のように that のあとに主語 (she) と動詞 (can speak) があります。

that she can speak French
S V

that のあとが She can speak French. のように文として成り立つことに注目しましょう。

Step 3 解答

No. 1 She told me (**that**) (**she**) (**is**) (**from**) (**Kyoto**).

No. 2 Did he tell you (**that**) (**he**) (**can**) (**play**) (**the**) (**guitar**) ?

No. 3 He didn't tell me (**that**) (**he**) (**was**) (**angry**).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 She told me that she is from Kyoto .
S V O O

彼女は私に、自分は京都出身だと言った。

- that のあとに主語 (she) と動詞 (is) があります。that のあとが She is from Kyoto. のように文として成り立っていることを確認しましょう。

No. 2 Did he tell you that he can play the guitar ?
S V O O

彼はあなたに、自分はギターを弾けると言いましたか。

- that のあとに主語 (he) と動詞 (can play) があります。that のあとが He can play the guitar. のように文として成り立っていることを確認しましょう。

No. 3 He didn't tell me that he was angry.

彼は私に、自分が怒っていると一言も言わなかった。

- that のあとに主語 (he) と動詞 (was) があります。that のあとが He was angry. のように文として成り立っていることを確認しましょう。
- that のあとの動詞が過去形の **was** になっている理由は、He **didn't tell me** と he **was angry** が同じ時のことを表しているからです。この文からは、彼が現在怒っているかどうかはわかりません。

Step 4 日本語訳

No. 1 A: ユキは大阪の出身ですか？

B: いいえ。彼女は私に、自分は京都出身だと言いました。

No. 2 A: 彼はあなたに、自分はギターを弾けると言いましたか。

B: ええ。彼はドラムも演奏できるんですよ。

No. 3 A: ジェイクはあなたに怒っていましたよ。

B: 本当？ 彼は私に、自分が怒っていると一言も言わなかったのに。

Extra 文を作ってみよう！

ここではレッスンで学んだキーセンテンスを応用するトレーニングをします。下のキーセンテンスの空所部分に自分の好きな語句を書き込んで、完成した英文を声に出して読んでみましょう。ヒントの語句を使っても構いません。

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

She told me that (_____).

①ヒント she lives in this town / her brother is a college student

Lesson 16

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 16 では目的語になる< that + 主語 + 動詞 ... >のかたまりから、that を省略することを学びました。

① We know (that) Emily is a great singer. 私たちは、エミリーがとても歌がうまいことを知っている。
S V O

② He told me (that) Emily is a great singer. 彼は私に、エミリーがとても歌がうまいと言った。
S V O O

●上の①と②の文のように< that + 主語 + 動詞 ... >のかたまりが目的語になる場合は、that がしばしば省略されます。

●①では文頭から順に、We know「私たちは知っている」→ Emily is ...「エミリーは…だと」のように意味を取っていても、誤解なく文の意味をつかめるはずですよ。

同じように②も、He told me「彼は私に言った」→ Emily is ...「エミリーは…だと」のように意味を取っていきましょう。

Step 3 解答

No. 1 I know (she) (often) (goes) (to) (the) (library).

No. 2 Do you think (he) (is) (interested) (in) (cooking)?

No. 3 She told me (she) (had) (a) (bad) (cold).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 I know (that) she often goes to the library.
S V O

私は、彼女がしばしば図書館に行くことを知っている。

●動詞 know の目的語となるかたまりから that が省略されています。かたまりの中には主語 (she) と動詞 (goes) があります。

No. 2 Do you think (that) he is interested in cooking?
S V O

あなたは、彼が料理に興味があると思いますか。

●動詞 think の目的語となるかたまりから that が省略されています。かたまりの中には主語 (he) と動詞 (is) があります。

No. 3 She told me (that) she had a bad cold.
S V O O

彼女は私に、自分はひどい風邪をひいていると言った。

Lesson 17

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 17 では < if + 主語 + 動詞 ... > のかたまりが目的語になることを学びました。

① I don't know **his hobbies**. 私は彼の趣味を知らない。
S V O

② I don't know **if he likes fishing**. 私は、彼が釣りを好きかどうか知らない。
S V O

●上の①と②は、どちらも < 主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O) > のパターンの文です。

●②の文では名詞の働きをする < if + 主語 + 動詞 ... > のかたまりが「～かどうか」といった意味を持ち、動詞 don't know の目的語になっています。

かたまりでは if のあとに主語 (he) と動詞 (likes) があります。また、if のあとが He likes fishing. のように文として成り立つことに注目しましょう。

●②の文のように、名詞の働きをする if のかたまりは動詞の目的語として使うことができます。このかたまりを目的語にする動詞には、know「～を知っている」、ask「～を尋ねる」、wonder「～かなと思う」などがあります。

Step 3 解答

No. 1 Do you know (if) (the) (store) (is) (open) (today)?

No. 2 I don't know (if) (it) (will) (be) (fine) (tomorrow).

No. 3 He asked me (if) (the) (party) (was) (fun).

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 Do you know **if the store is open today**?
S V O

あなたはその店が今日、開いているかどうか知っていますか。

- < if + 主語 (the store) + 動詞 (is) ... > のかたまりが動詞 know の目的語になっています。かたまりの中では、if のあとが The store is open today. のように文として成り立っていることを確認しましょう。

No. 2 I don't know **if it will be fine tomorrow**.
S V O

私は、明日は天気がいいかどうか分からない。

- < if + 主語 (it) + 動詞 (will be) ... > のかたまりが動詞 don't know の目的語になっています。かたまりの中では、if のあとが It will be fine tomorrow. のように文として成り立っていることを確認しましょう。
- かたまりの中の動詞が **will be** になっている理由は、I don't know という今の時点から見て、これから先 (tomorrow) のことを述べているからです。

Lesson 18

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 18 では < whether + 主語 + 動詞 ... > のかたまりが目的語になることを学びました。

① I don't know if he likes fishing . 私は、彼が釣りを好きかどうか 知らない。
S V O

② I don't know whether he likes fishing . 私は、彼が釣りを好きかどうか 知らない。
S V O

●上の①と②はどちらも < 主語 (S) + 動詞 (V) + 目的語 (O) > のパターンの文です。①の if のかたまりは Lesson 17 で学びましたね。ふたつの文の違いは動詞 don't know の目的語となるかたまりが、if で始まるか、whether で始まるか、ということだけです。

● < whether + 主語 + 動詞 ... > のかたまりは名詞の働きをして、「～かどうか」といった意味を表します。①の文の if が作るかたまりと同じ意味ですが、whether を使ったほうが if を使うよりもかたく聞こえます。

● whether が作るかたまりを目的語にする動詞には、know「～を知っている」、ask「～を尋ねる」、wonder「～かなと思う」、decide「～を決める」などがあります。

*なお、whether が作るかたまりは主語や補語にすることもできます。(→本冊 p.55「プラスアルファ」参照)

Step 3 解答

No. 1 I wonder (**whether**) (**the**) (**news**) (**is**) (**true**).

No. 2 Do you know (**whether**) (**we**) (**can**) (**go**) (**home**) (**or**) (**not**) ?

No. 3 They asked me (**whether**) (**I**) (**had**) (**a**) (**passport**).

解説

S : 主語 V : 動詞 O : 目的語

No. 1 I wonder whether the news is true .
S V O

私はその知らせは本当なのかどうかと思う。

● < whether + 主語 (the news) + 動詞 (is) ... > のかたまりが動詞 wonder の目的語になっています。

● wonder「～かなと思う」は、< if + 主語 + 動詞 ... > を目的語にすることもよくあります。

例 : I wonder if the news is true.

No. 2 Do you know whether we can go home or not ?
S V O

あなたは、私たちが帰宅していいのかわいけないのかわっていますか。

● < whether + 主語 (we) + 動詞 (can go) ... > が動詞 know の目的語になっています。

● この文のように、whether が作るかたまりは whether ... **or not** の形をとることができます。

また、whether we should go home **or stay here** 「私たちが帰宅するべきかここにいるべき

- L14～L18はレッスン番号を、No. 1～No. 3はキーセンテンスの番号を表しています。たとえば(L14: No. 2)ならLesson 14のNo. 2を表します。わからない文があったらレッスンに戻って復習しましょう。
- (応用)と書かれた文は、このトレーニング用に作られた文です。

Mix 1

1. I don't think **that** the math course is easy. (L14: No. 3)
2. Do you know **if** the store is open today? (L17: No. 1)
3. I know **that** she often goes to the library. (L16: No.1のthatを省略しない文)
4. They asked me **whether** I had a passport. (L18: No. 3)

Mix 2

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

1. I know (**that**) she has a boyfriend. (L14: No. 1)
 $\frac{S}{I} \quad \frac{V}{know} \quad \frac{O}{she \text{ has a boyfriend.}}$
 私は、彼女にボーイフレンドがいることを知っている。
 * that が作るかたまりが動詞 know の目的語です。
2. He told me a joke (**and**) it was really funny. (応用)
 彼は私に冗談を言い、それはとてもおかしかった。
 * and が前後の文をつないでいます。and の前後がそれぞれ文として独立しています。
3. He knew the answer (**but**) he didn't tell me. (応用)
 彼は答えを知っていたが、彼は私に教えてくれなかった。
 * but が前後の文をつないでいます。but の前後がそれぞれ文として独立しています。
4. Do you know (**if**) we can go home? (L18: No. 2を応用)
 $\frac{S}{I} \quad \frac{V}{know} \quad \frac{O}{we \text{ can go home.}}$
 あなたは、私たちが帰宅していいかどうか知っていますか。
 * if が作るかたまりが動詞 know の目的語です。
5. I wonder (**whether**) the news is true. (L18: No. 1)
 $\frac{S}{I} \quad \frac{V}{wonder} \quad \frac{O}{the \text{ news is true.}}$
 私はその知らせは本当なのかどうかと思う。
 * whether が作るかたまりが動詞 wonder の目的語です。

Lesson 19

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 19 では疑問文の内容が目的語になることを学びました。

- ① I know the guests . 私はそのお客さんたちを知っている。
S V O
- ② I know who he invited . 私は、彼がだれを招待したか知っている。
S V O
- ③ I know who came here first . 私は、だれがここに最初に来たか知っている。
S V O

- 上の3つはどれも<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>のパターンの文です。
- ②と③は、疑問文の内容を名詞の働きをするかたまりにして、目的語にしています。その際、かたまり内の語順は、who のあとは<主語+動詞>になります。
- ②の文では、次の疑問文の内容が目的語になっています。

Who did he invite? → who he invited
S V

who のあとが<主語 (he) + 動詞 (invited)>です。

- ③の文では、次の疑問文の内容が目的語になっています。

Who came here first? → who came here first
S V

かたまり内で who は主語の働きをしているので、<主語 (who) + 動詞 (came) ...>とします。

Step 3 解答

- No. 1 I know (what) (she) (wants) (for) (her) (birthday).
- No. 2 I don't know (what) (happened) (that) (day).
- No. 3 Do you remember (who) (brought) (these) (flowers) ?

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 I know what she wants for her birthday .
S V O

私は、彼女が誕生日に何が欲しいか知っている。

- What does she want for her birthday? という疑問文の内容を目的語にします。
- かたまり内は< what + 主語 (she) + 動詞 (wants) ...>の語順になります。

No. 2 I don't know what happened that day .
S V O

私はその日に何が起こったのかわからない。

- What happened that day? という疑問文の内容を目的語にします。

Lesson 20

解答・解説

レッスンのテーマ

Lesson 20 では Lesson 19 に引き続き、疑問文の内容が目的語になることを学びました。

① I know **the place**. 私は**その場所**を知っている。
S V O

② I know **where the theater is**. 私は**その劇場がどこにあるか**知っている。
S V O

- 上の①と②はどちらも<主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O)>のパターンの文です。
- ②では次のように、疑問文の内容を名詞の働きをするかたまりにして、目的語にしています。

Where is the theater? → where the theater is
S V

かたまり内の語順は、where のあとが<主語(the theater) + 動詞(is)>です。

Step 3 解答

No. 1 I don't know (when) (he) (graduated) (from) (college).

No. 2 Can you tell me (when) (the) (package) (will) (arrive)?

No. 3 Do you know (where) (she) (met) (that) (boy)?

解説

S: 主語 V: 動詞 O: 目的語

No. 1 I don't know **when he graduated from college**.
S V O

私は、彼がいつ大学を卒業したのか知らない。

- When did he graduate from college? という疑問文の内容を目的語にします。
- かたまり内は< when + 主語(he) + 動詞(graduated) ...>の語順になります。

No. 2 Can you tell me **when the package will arrive**?
S V O O

その小包がいつ届くか、私に教えてくれませんか。

- <主語(S) + 動詞(V) + 目的語(O) + 目的語(O)>のパターンの文で、「(人)に～を教えてくださいませんか」という意味を表しています。
- When will the package arrive? という疑問文の内容を2番目の目的語にします。
- かたまり内は< when + 主語(the package) + 動詞(will arrive)>の語順です。このかたまりは今の時点から見て先のことを述べているので、動詞は will arrive となります。

3. I was at home when you called me. (応用)

S V 副詞の働き 副詞の働き

あなたが私に電話した時に、私は家にいました。

* when you called me で「いつのことか」という情報を加えています。このかたまりは副詞の働きをしています。

4. Do you know when the cat left the room? (応用)

S V O

あなたは、そのネコがいつ部屋を出たのか知っていますか。

* when the cat left the room というかたまりが名詞の働きをして、動詞 know の目的語になっています。

5. We don't know when the snow will stop. (応用)

S V O

私たちはいつ雪がやむのかわからない。

* when the snow will stop というかたまりが名詞の働きをして、動詞 don't know の目的語になっています。

* 名詞の働きをするかたまりがこれから先のことを表している場合は、動詞は will stop のようにします。

学校専用販売品 *学校の先生を通じたご注文のみ、お受けしております。

装丁・本文デザイン・DTP 有限会社 ギルド

録音・編集 株式会社 巧芸創作

ナレーション 夏目 ふみよ、Chris Wells、Katie Adler

英文校閲 Don W. Maybin、Jason Andrew Chau

編集協力 株式会社 ターンストーンリサーチ

聞く・話す・書く 英語の語順トレーニング Level 2 解答・解説書

2017年10月5日 初版第1刷発行

2018年2月9日 初版第2刷発行

監修者 飯野 厚

編著者 英語運用能力評価協会

発行者 金谷 憲 (NPO 法人 英語運用能力評価協会 理事長)

発行所 NPO 法人 英語運用能力評価協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南四丁目3番4号 大江ビル 1F

電話 03-3230-0571

振替口座 00130-5-480881

<http://www.english-assessment.org/>

販売 株式会社 三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町二丁目22番14号

印刷・製本 三省堂印刷株式会社

・落丁・乱丁本はお取替えいたします。

・本書の一部もしくはすべての内容を無断で複写、複製することを禁じます。

Printed in Japan